

## 平成 23 (2011) 年度 日本語研修コース報告

和田 礼子

### 1. 第 13 期 (2011 年 4 月~8 月) コース概要

開講期間：平成 23 年 4 月 11 日～平成 23 年 8 月 4 日

開講時間数：週に 90 分×9 コマ。

	月	火	水	木	金
10:30～ 12:00	日本語 会話 1	日本語 会話 1	日本語 会話 1	日本語 会話 1	日本語 会話 1
12:50 ～14: 20	異文化 理解 1	漢字 1	スピーチ	特別研修	

使用教科書：『みんなの日本語初級 I』（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語漢字 I』（スリーエーネットワーク）

コース日程：

- 4 月 6 日～4 月 7 日 プリセッション ひらがな、あいさつ指導  
(センター教官指導のもと、チューターによる個別指導)
- 4 月 9 日 全学留学生オリエンテーション
- 4 月 11 日 日本語授業開始
- 8 月 4 日 日本語能力試験 N5 級相当の試験実施
- 8 月 1 日 ポスターセッション

### 2 受講生・授業について

クラスは大使館推薦国費の留学生 2 名（コロンビア、パキスタン）と、連合農学研究科の博士課程 1 年生 2 名（ベトナム）でスタートした。

予備教育生の 2 名は漢字、コンピューター実習、特別研修など、午後を開講されている授業も履修したが、D1 の学生 2 名は午後は研究室で実験やゼミに参加しているため、午後の授業は履修できなかった。また、集中のセミナーなどのため欠席することも多かった。D1 の学生は家庭学習の時間も十分に確保できないようで、クラスの中で、予備教育生と、D1 の学生との間で、大きく習得に差がついてしまった。

また、D1 の学生は文字、発音学習の段階から、日本語の音声の聞き取り、および発音が非常に困難であった。母語による影響から、ローマ字表記をしても、正確な日本語の音を発音することができず、4 月、5 月に行なっていた単語や、文型例文のディクテーションテストは困難をきわめた。

最終試験の結果、D1の学生のうち一人は合格点に達することができなかった。合格した学生も、D判定の成績だった。予備教育生の2人はいずれもA判定だった。漢字を学習した予備教育生に対して日本語能力試験 N5 レベル相当のテストを行った結果、二人とも得点率 70 以上で合格相当の成績だった。

博士課程 1 年の学生は十分な学習時間が確保できないため、自宅学習が前提の進め方では十分な効果が得られない。今回は補講を行い、主に音に注目した自宅学習の方法を教えたり、トレーニングしたりしたが、十分な効果は得られなかった。

特に音声に関する教育について、発音できる学生と、単音レベルで問題のある学生とが同じ教室で学習するに当たっては、教室内の活動を分けて行うといった手だてを講じたが、決定的な改善には つながらなかった。

### 3. 学生による授業評価結果についての分析と考察

あなたはたくさん勉強しましたか (とても)がんばった:3 ふつう:1 平均:4.0

授業でおぼえたことを毎日の生活で使えるようになりましたか

はい(まあまあ):3 ふつう:1 平均:3.4

授業のスピード平均:4.3

ほんとうによかった 1 まあよかった:3

他、評点の平均学習量:3.7、学生数:3.5 授業時間:4.5 全体:4.5、教え方全体 4.7

宿題、レポートの直し方:4.4、授業全体:4.4

クラスの学生数について、「よくなかった」1名「ふつう」1名で、両者とも学生数が少なかったとコメントしている。クラスの構成員は4名だったが、レベル差のため、2人ずつに分けて活動することが多かったことが原因だと思われる。常に同じ相手と練習しなければならず、上位の2人にはバリエーションが少なく感じられたのかもしれない。授業全体に対する評価は「ほんとうによかった」2名、「まあ、よかった」2名だった。

(留学生センター准教授)